

清水町議会  
総務産業常任委員会  
所管事務調査説明資料

平成 30 年 5 月 24 日

商 工 観 光 課

## 清水公園の活性化方針(案)

### 1 清水公園の成り立ち

清水公園は、昭和 54 年に町民の憩いの場として開設し、昭和 62 年に町内の有志が出資する「清流観光株式会社」が町から敷地の無償貸与を受け「レスト&パークしみず」を開設。平成 2 年に PG「カリヨンコース」、平成 7 年「パノラマコース」を設置した。平成 5 年には、「カリヨントイレ」が完成。

隣接する「ペケレの森」は、平成 4～8 年に、北海道において治水、親水機能施設（公園施設も兼ねる）として、ふるさとの川整備事業により整備が行われ、平成 10 年に道知事と管理区分についての協定が締結された。

### 2 経過

- 平成 20 年 12 月 町長提案により「清水公園活性化プロジェクト」を設置
- 平成 21 年 11 月 清水町観光振興に関する提言（ライヴ環境計画有山氏）
- 平成 22 年 1 月 ペケレの森「木製階段」の老朽化により閉鎖決定
- 平成 23 年 7 月 展望パークゴルフ場が「十勝清水四景+1」の一つに決定
- 平成 27 年 3 月 清水町観光資源再生基本ビジョン策定
- 平成 28 年 2 月 清水公園活性化プロジェクト会議開催
- 平成 28 年 8 月 台風 10 号災害
- 平成 28 年 12 月 ダイニングカフェサルビアの現状について協議
- 平成 29 年 3 月 清水公園内の設備について協議
- 平成 29 年 7 月 清水公園の在り方について協議
- 平成 29 年 8 月 町長と各団体との懇談会において清水公園の再整備について発言
- 平成 29 年 9 月 清水公園の再整備について庁内で協議→検討作業
- 平成 29 年 11 月 総合計画実施計画ヒアリングにおいて協議
- 平成 30 年 1 月 予算編成過程において清水における観光案内業務・物産展示販売業務について清水公園を拠点として実施するためダイニングカフェサルビアに業務を委託することを検討。実施のためには浄化槽の改修が必要と判断。
- 平成 30 年 4 月 観光協会と清流観光株式会社において委託業務を締結

清水公園の活性化については、開設から 30 年ほど経過した平成 20 年から議論が行われ、この間、電源開発振興センターの助成を受けた観光協会事業における提言、町観光資源再生基本ビジョンが策定され、町の観光振興について種々検討がされてきたが、具体的な実現には至っていない。

清水公園においては、昭和 62 年に「レスト&パークしみず」が営業を開始し、「しあんるるめぐみ」を経て、平成 25 年 6 月に「カフェダイニング・サルビア」が営業を開始した。

平成 28 年 8 月の台風 10 号災害により、法面の土砂崩れ、差し水の流入、浸透升の処理の

不具合などにより、営業継続が困難になり休止となっていた。

平成29年8月の、各団体と阿部町長と懇談会において、清水公園を観光施設として整備し、休憩型観光を推進する旨の提案があり、関係課による協議が数回行われ、活性化に係るアイデアが出されたが、実施にまでは至っていない。

清水公園活性化の一つとしてサルビアの再開が重要なポイントであり、経営者と再開に向けての話し合いを進め、町が浄化槽を改修し、観光情報発信機能及び物産の展示販売の委託業務を締結することとなった。

この間の協議を経て、現時点での清水公園の活性化について、下記のとおり整理する。

### 3 清水公園の位置づけ

清水公園を「町民の憩いの場」とするとともに、町外の方が目的地として訪れる「観光施設」として位置付ける。

阿部町政において清水町の目指す観光振興スタイルは「休憩型観光」により町内に賑わいを創出する「食の拠点」構想の具現化である。

その一つとして、町外者が目的地として訪れる清水公園の整備が重要である。

### 4 清水公園の魅力

清水公園は、広大な面積のグリーン、そのグリーン活用した起伏のあるパークゴルフ場、ボートのある大きな池、親子連れで子どもたちと触れ合うことができる遊具、四季折々に花や実をつける樹木など、自然を満喫する体験型の公園であり、20～40代のファミリーやパークゴルフを愛好する比較的高齢の方が主として来場されていると推測し、それぞれが思い思いの楽しみを見つけ来場されている。

次項目の「カフェダイニング・サルビア」の来客層も含め、町外者が目的地の一つとして認めることができる観光施設となり得ると考える。

### 5 清流観光株式会社の特徴

敷地内で唯一有人により運営管理をされる施設として「カフェダイニング・サルビア」が再開された。

平成28年8月の災害以前の状況では、30～40代の親子、女性同士などが、同店で提供される質の高いメニューと清水公園の景観、池などの鑑賞と公園内の散策などを目的に、町外から訪れていた割合が多い。提供されているメニューについては、自然志向の素材にこだわったものが多く提供されており、ナチュラル志向の顧客が訪れていた。

### 6 活性化に向けて必要な整備

自然を体感する形態の施設であり、優先するべきことはきれいで爽快な景観の維持であると考えられる。

また、町外の方で、主として20代～40代のファミリーをターゲットとして考えると、

主導権は女性側にあると推測する。女性が立ち寄ることを希望する施設整備を行う必要がある。

大規模な施設の形態が変わるような整備は、老朽化している体育館のあり方とあわせた検討を行い、鑑賞型公園の再整備、もしくは体験型公園の再整備等、再整備について方向性を定める必要がある。

#### (1) 速やかに整備等を実施 (H30年度及び31年度)

##### ① 老朽化し一部が損傷している木製階段の改修

子どもたちや高齢の方が安心して上れるようにするため、損傷個所を調査し、必要な改修を実施する。

清水公園の景観、イメージを損なわないよう改修は木製の階段として整備する。あわせて、園路の改修についても検討していく。

##### ② 女性が気軽に快適に利用できるトイレの改修

身障者用トイレ、幼児用設備を個室内に付けた洋式化の改修を行う。

観光施設として人が立ち寄ることができる清潔なトイレの維持管理を行う。

冬季間の開放について検討する。

##### ③ 来場者に安心とホスピタリティを感じることができる維持管理

観光施設として必要な維持管理を行う。

ツツジ及びその他の樹木の剪定を行う。

遊具の点検結果を確認し、増やすことはスペースの都合で難しい。

##### ④ コミュニティバスの停留所の設定

体育館前の橋の開通までコミュニティバスの運行経路の延長は困難なため、他の車の運行について模索する。

#### (2) 長期的視点で整備を検討 (H31年度以降)

##### ① ペケレの森の再整備

河川改修時に設置される管理道を「散策路」として位置付け、災害復旧工事による再整備が該当しない部分について、周辺の緑化、広場の造成など、北海道に復興工事を要望した。災害前の状況の復元ではなく、自然体験を主とした散策コース周辺の整備を要望し、今後継続して協議を進める。

##### ② 池の再整備

H31若しくはH32年度に水道石綿管の更新のため新たな水道管を敷設する。国道の道路敷地及びJRの線路の横断が関連するため、関係機関と協議をしていく。

太鼓橋、日本庭園など池の形状を含めて全体的な改修については、体育館の建て替え方針や水道管の更新工事の見通しなど総括的に検討していく必要がある。

##### ③ 体育館との連絡通路(トンネル)の検討

体育館との連絡通路(トンネル)は、内部の照明が損傷しており、また、壁などの汚

れも目立つ状態である。

イベントなど開催時の駐車場の確保の面から、体育館との連絡通路は重要であり、快適に通ることができる整備が必要である。

体育館側の PG コースとの連携、また、築年数が経過している体育館の在り方を含めて検討していくことが必要である。

#### ④ 樹木の検討

敷地内の樹木の整理について、四阿から見下ろした際に、植樹後長期間を経過した樹木が背高く成長し、枝を伸ばして池やグリーンなどせっかく景観を。

樹木が過密で適切な成長が出来ず、倒木が発生するなど、安全面からも間伐や剪定などが必要である。

また、梅や栗の木が敷地の奥に植樹されているが、実を付ける時期に家族連れが収穫することができるような仕掛け、植樹の検討が必要である。

#### ⑤ バーベキューハウス、キャンプサイトなどの増設

バーベキューハウスの増設や改修、斜面を利用した滑り台など遊具の設置など、公園の再整備の方針とともに検討をしていく。

#### ⑥ 遊具の再整備

平成 30 年度に遊具の点検を実施するので、その結果に基づいて必要な対応を行う。

遊具の再整備についても公園の再整備の方向性とともに検討をしていく。

#### ⑦ 公園の管理の指定管理化

民間の発想で、観光施設としての管理を行うことで、目的地となる魅力が増加することも期待できるため検討については排除しない。

池・ボート



池・ボート





バーベキューハウス



清水公園パークゴルフ



清水公園パークゴルフ



清水公園パークゴルフ





# 清水公園状況(台風10号被災前)

## 清水公園案内図

